# 令和４年度　第３回学校運営協議会（第３回コンプライアンス委員会）議事録

１　期日　　令和５年２月 15 日（水）　午前９時 30 分から午後０時 30 分まで

２　参加者　＜学校運営協議会委員＞

岩見　良憲　　元浜松学院大学教授　元特別支援学校長
伏見　修　　株式会社　ドリームビレッジ　代表取締役
井出　正則　　社会福祉法人　富士市社会福祉協議会　障害サービス室長
望月　勝也　　八王子１丁目町内会長
勝亦　英介　　勝亦園
安田　慶子　　令和４年度富士特別支援学校ＰＴＡ会長

＜教職員＞

滝尾　彰彦（校　長）　　片岡　佳美（副校長）　　村上　智美（教　頭）
岩崎　肇　（事務長）
稲木　龍元（小学部主事）　竹下　哲之（中学部主事）
山川　裕子（高等部主事）
土屋　ふみ（教務主任）

３　校長挨拶

今回は今年度の成果と評価を報告する。来年度 4/11 に富士東高校の敷地内に富士東分校が開校する。分校の教育目標は『良さを磨き　協働を通して　地域社会を生きる人』を育てる、とした。校名プレート設置では富士東高と横並びで、共生・共育を目指している。教室等の準備はこれから行っていく。先日、東分校設置委員会と富士東高学校長と覚書を交わした。静岡県教育委員会広報部の Twitter で紹介している。

エシカル甲子園に高等部のエコサービス班が出場した。徳島県で開催され、全国大会本線に、東海ブロックの代表として進んだ。高校の参加の中、本校の取り組みが評価され、日本エシカル推進協議会会長賞に選ばれた。後ほどこの時の発表を生徒が行う。また、教育長を表敬訪問し報告を行った。その様子が静岡新聞に掲載された。

今日は作業製品の販売会である富士特マルシェを、ファミリーマートと昇降口で行うので、販売の様子を見ていただく。本日の協議会では、実際に子どもの活動を見ていただいたうえで、御意見をいただきたい。

４　令和４年度の学校評価

全体評価（副校長）

前期から後期に向けて、良い方向に改善されている。青字が来年度に向けての課題。業務改善については、働き方はスリム化されてきている。スリム化より一歩進んで、学部や分掌を超えての連携にシフトしていく。連携を視点に業務を見直し、質の向上を目指したい。

分掌評価と改善案（教務）

教務課……災害時のＳＢ運行を防災課と連携して行う。個別の指導計画の管理を行う。
地域連携課…ＨＰの活用。高等部生徒の相談を生徒指導課と連携して行う。
キャリア支援課…進路指導の手引きやキャリアパスポート、ＨＰの活用。ミニ学習会の開催。

保健安全課…保健の授業を体育課や保健室と連携。教職員弁当とりまとめは職員厚生が行う。
庶務課……消耗品等の適正な利用、節約の呼び掛けを情報課や実習支援員と連携して行う。
防災課……富士市個別避難計画を周知し地域と連携。学校 YouTube チャンネルを検討する。
生徒指導課…自主通学生徒への登下校災害時の対応指導を防災課と連携する。
医ケア課……個別リスクマネジメントの活用。災害時の医療機関との連携、防災課と相談する。
研修課……新しい研究テーマとなる。各学部、自立活動課、研修課と連携して行う。
自立活動課…夏季テーマ別研修や教材教具展については企画会を通して検討する。
体育課……保健の指導を保健安全課や保健室と連携して行う。
文化芸術課…本の購入を生徒指導課や教務課と連携する。小学部学習発表会は小学部の業務とする。

＜各学部評価と改善案＞

小学部説明（小主事）

福祉避難所については、情報を周知し不安に思うことを減らしていく。行政と学校が担う部分を明確にして見通しを持てるようにする。キャリア発達支援については、どの段階で何を教えるかを見直し、進路懇談会等で保護者へ啓発する。またキャリアパスポートのより良い使い方を検討する。業務のスリム化では、書類の統一や見本の作成、情報共有・周知をした。業務を平準化し内容を改善。内容の質を落とさず平等に分けるようにした。コミュニケーションについては、保護者の不安が減少するよう、この段階ではこれが必要と具体的に提示していく。

（質問）防災や福祉避難所に対する理解。教員が全体を理解して実際に取り組むのに良い方法は何か。

中学部説明（中主事）

前期から後期にどう変わったかを評価。防災では、いろいろな研修を行ったので教員の評価は上がっている。防災課と合わせながら、学部で出来ることをしていく。業務のスリム化では、業務の理解をしっかりすることで質の改善につながる。学部で共通理解して取り組む。人権では、熱意のあまり生徒への人権を損なう指導にならないよう引き続き研修を行う。道徳では、生活場面全般で評価を行うため、どうすればよいか迷う教員が多く、学習会を行った。来年度も継続する。読書の日を設定し試行した。本に親しむことで情操教育や道徳につながるので、来年度は月１回設定する。12 年間のつながりを意識する教員が増えたため、課題として捉え評価が下がったように思う。小・高で大事にしていること押さえる。タブレットは扱い方に教員が慣れた。どう活用していくのか今年度中に学習会を開催する予定である。これについて話し合うというポイントを持つことでスリム化や専門性が向上する。

学部会で定期的に学習会を行っている。

（質問）教員が同じ課題意識を持ってテーマに向けて話し合う方法、アプローチの方法。

高等部説明（高主事）

話し合いでより良さが望める。高等部の強みや良さを生かして弱みは補う。業務のスリム化は、目的や根拠をはっきりし、今これを行うという適時性をつけ、有効な方法を取り入れていく。生徒の心のケアは、心の傷に対し、特性や生活背景を理解した上で行う。生徒への接し方を学んで共有し、いろいろな組織を活用する。緊急時対応は、人任せとならないよう、機会を増やすのではなく１回の訓練を細かく行う。災害時の行動は適切な行動が身につくような防災学習を計画的に行う。それにより、避難生活に適応しやすく、他者に協力できるようになる。個別の支援計画では生徒の強みや良さに注目して指導を展開し、本人の良いところを伸ばしていく。

どうすればうまくいくのかを本人が学ぶことで適正な自己理解に繋げる。年計は修正したので来年度に実施する。外部人材を計画的に活用し、専門性の高い講師から学ぶ。地域と子どもの良さや有効な支援を共有することで、学びの場を地域へ広げ、その中で生徒が力を発揮するようにしていく。卒業生や卒業生の保護者など地域の人材を活用する。卒後の生活に憧れを持ち、保護者は経験談を聞く良い機会となる。

（質問）教員間の認識や業務に対する意識。なるべくフラットにするには。

5　エシカル甲子園　報告

感想

伏見委員　分かりやすいプレゼンだった。４つのことを繋ぐ、班のプライドがひしひしと伝わってくる。

井出委員　発表した２人のことを小さな頃から知っている。二人とも立派になった。とても良い発表だった。

勝亦委員　素敵な活動で感動した。これからも思いを繋いで頑張ってほしい。「地球を救って」ほしい。

望月委員　大変良かった。素晴らしい。これからも頑張ってほしい。素晴らしい人材をこの学校は育てている。

安田委員　当日の様子を YouTube で見た。今日は直接拍手を送ることができて良かった。発表とスライドを動かすタイミングが合っていた。発表の声が大きくてとても良かった。

岩見委員　分かりやすくて良かった。これからも発表する機会があると思うが頑張ってほしい。

6　富士特マルシェ　参観

7　学校関係者評価（評議員による評価）

Ａ委員　防災はなかなか難しい。他の事業は推測して検証できるが防災は検証しかできない。起きる時はとっさで、想定外の事が起きる。清水の災害の時はトップの判断がなかなか思うようにいかなかった。常にトップの判断を仰いでいるが、情報は常にトップまで届くとは限らない。例えば、バスの運転手が実際どこまで判断するか。細かく誰にどこまでの権限があるのかを決めておくほうが良い。ＤＸについては、ソフトはこれから良くなっていく。教員は子どもを見ているから書類作成がなかなか出来ない。メモをしたらそれが文書へつながり、汎用できるようになるといいが、まだ時間がかかると思う。チャットＧＰＴはすごい。もう少し待てばスリム化になる。民間は即決できる仕組みだが、行政は決定に時間がかかる。現時点で、十分やっていると思う。連携、教員の思い、ベクトルが一緒にならないことに関しては、マイクロソフト社の取り組みが参考になる。ＩＴの中でトップに返り咲いた会社。キーワードはパートナーシップ。誰の役に立ったか、誰に助けられたか。みんなで助け合う。事業の連携が人と人との連携になるといい。

Ｂ委員　防災に関して、正規の教員と講師の教員と役割分担が異なるのか。何かあった時、正規の教員だけでは回らない。講師の教員にそこまで責任を持たせて良いのか。しかし外部から見た場合は、皆同じ教員であり、なかなか判断が難しい。図書について、校長先生や高等部生徒のお薦め本の紹介の取組は良いと思う。卒業生の話は生きた勉強

となる。ドラムサークル等の外部講師の活用は、スキルの向上と人間関係の広がりがあって良い。ＨＰについては、外部の専門家を活用してはどうか。予算が伴うかもしれないが、スキルのある外部の専門家が入って行うとより良い物を保護者に提供できるようになる。教員の不祥事が多いことをＴＶで取り上げていた。対策として研修を行っていると思うが、真面目な教師には負担が増え、研修がプラスになっているかは疑問である。逆に負担になっていないかと思う。

副校長　県では学校にＩＣＴ支援員を派遣する事業が始まった。本校は２回活用し、困っていることを相談でき解決した。ＨＰへの記事掲載までの手続きは難しく、タイムリーに情報提供ができていない。高校は Twitter や YouTube が簡単で推奨されている。県のＤＸ課から、配布文書の電子化を進めるよう指示が来ている。学校から様々な文書が出ているが、誰に伝えたいのか、何を伝えたいのか等を整理することで、作成者の負担が減ると思う。

Ｃ委員　外部の専門家を活用し、やってもらってはどうか。

副校長　ＨＰのリニューアルについては県のＤＸ課やＩＣＴ支援員に相談している。

Ｃ委員　保護者は学校のＨＰを見ることがあるか。

Ｄ委員　情報の時代で、お便りは富士の子たより、保健たより、給食たより、学校たより、スクールバスたより…と多く、管理しきれないという保護者がいる。お便りを受け取る人は、主に子どもの世話をしている人で、家族間で学校の情報を共有できていない。父親も子どもの情報にアクセスできると良い。電子化できると良い。ＰＴＡの役員会は、グループラインを活用してお知らせをしている。役員は１年で代わるのでやり方はその都度変わる。ＰＴＡ公式ラインのアカウントが欲しい。情報機器管理ができる人が役員になる訳ではないので、役員改選時は難しい時がある。ＨＰでは同じ内容を繰り返し投稿するミスがあった。子どもが何を食べているか給食の投稿を見ることが楽しみだったが更新が少なくなった。校長先生やキャリア支援課のメニューが増え、楽しく読んでいる。保護者のリテラシーの幅が広い。見ていない人も、よく見る人も様々。学校の様子を知ることはＨＰ頼み。もう少し充実すると良い。扱いが Line くらいになって欲しい。ＤＸ推進はありがたい。セキュリティを強化することは大切。被害に遭う可能性は０ではないので、セキュリティを強化してほしい。紙を管理できない人はデータも管理できない。スマホで母親たちが管理できるかは不安。富士特アプリがあって、その中で富士の子だよりや〇〇便りと分かれていると良い。電子機器に振り回されて、そもそもの目的を見失わないようにしたい。何のためのＩＣＴかＤＸ推進か。目的が曖昧になるなら情報は紙でも良い。柔軟さがあると良い。

Ｃ委員　電子情報の課題がある。情報提供、セキュリティ、保護者のリテラシー。誤解を生みやすい。子どもの成長につながっているか。教員は、自分の学校で、どのくらい情報が外に出ているか分かっているか、認識しているか。

校長　差がある。やっていることを掲示板に掲載して分かるようにしているが、教員が同じ水準で理解、把握しているかの把握は難しい。様々な課題がある。子どもの成長につながる情報提供をする。また、情報提供には取捨選択も必要だと思う。

Ｄ委員　生徒の理解を広げる取り組みとして、中学部の生徒と一緒に学習を行って 10 年が経つ。知っているのは中学部だけだが、小学部・中学部・高等部と地域のつながりはどのようになっているのか。小学部から段階を踏んで地域とつながらないと、いきなり

自立は難しいと思う。富士市の青少年健全事業に携わっていたので、特別支援学校の子どもが地域や外部との関わることが必要だと感じている。今後も社会教育活動を広げていきたいと思う。自分の役割を果たし自信を持って、スムーズに社会に入っていけるよう、小学部から取り組むと良いと思う。災害時にスムーズに他者と協力できるよう、住民との関わりがあると良い。企業１社よりも商工会議所と連携をすると、様々な所とつながることができる。私が商工会議所と繋げる役割をすることができる。

Ｃ委員　小学部、中学部、高等部では、それぞれ地域とどのようにつながっているか。

小主事　学習の目標や内容と照らし合わせて校外学習を設定している。富士市中央消防署、エコトピア、地域の施設利用、ファミマ、スーパーなどに行っている。また、３Ｂ体操やキッズダンス、音楽療法など専門性のある外部講師による授業を行い、児童の世界を広げている。県や外部団体からの誘いを受け、大渕工業団地整備時にトラックや重機の見学、人形劇の鑑賞を行った。

中主事　校外学習では、２回同じ場所へ行き深く地域と関わった。大渕クリーン作戦で学校近くを清掃した。作業学習では富士市花の会の方を外部講師として招き、やり取りを楽しみながら活動を行った。「みんなのために」を大切におさえ、こどもの国などとも連携している。

高主事　進路を決める学部であるので、企業や福祉施設への職場見学や実習を行っている。出前選挙講座や消費者講座では外部講師による講義をお願いしている。作業製品販売会「富士特マルシェ」を開催している。ボランティア部は大渕クリーン作戦に参加した。商工会議所とのつながりは作品展だけだったので、是非今後連携していきたい。

Ｅ委員　今年度の取り組みは良かったと思う。

Ｆ委員　スクールソーシャルワーカー（ＳＷ）の導入はどうか。スクールカウンセラー（ＳＣ）を親子で利用したが、初めて会う人に大きな課題を１時間で相談することになった。継続して何回でもＳＣに相談できるが、もう少し学校と家庭を取り持ってくれる立場の人（ＳＷ）が福祉でなく学校にいると良い。担任と話す時間が限られていて話を進めたくても進められないことがあり、もう少しクッションやアイデアが欲しいと思うことがあった。ちょっと話したいのではなく継続して相談したい。ちょうどＳＷの話を聞いたので、導入してはどうかと思う。富士宮市商店街まちなかアートギャラリーがある。芸術家が店に作品を置き、商品が売れると１％を店がとる。富士宮分校美術部が毎年参加している。私も６年前に子どもの作品を集め保護者の許可を取って５日間空き店舗に飾ることを行った。店番や来場者と触れ合えるなど様々な経験ができる。参加してはどうか。図書の新規購入について、図書館のように家庭からの購入リクエストができるか。できれば子どもの好きな本をリクエストしたい。

Ｃ委員　ＳＷは制度としてあるか。

校長　特別支援学校にはまだない。

Ｆ委員　ＳＷは福祉サービスにはいるが、学校との連携が取りづらい。学校の中にＳＷがいると連携しやすい。

副校長　それに近い業務を行う担当として、校内にコーディネーターが３名いるが、他の業務もある。

校長　ＳＷや図書については、ＰＴＡで話題にして要望を学校へ出してほしい。

Ｃ委員　質問にあった、教員間の考え方の違いについてどう取り組むかについては、今回は時

間がないので行わない。機会があれば令和５年度の協議会で話し合うことにする。

８　令和５年度の学校経営方針の説明

校長　　令和５年度のグランドデザインと学校経営計画はまだ案の段階。グランドデザインは、学習指導要領に沿って縦のつながりを意識した小学部・中学部・高等部の目標がある。目標具現化の柱は守る・育む・つなげる、の３本。３つのキーワードを分掌が連携部により担う。学校運営組織の縦のつながりと横のつながりを表している。学校経営テーマは『誰もが幸せを感じる学校』で、「誰も」とは、児童生徒、保護者、教職員を指している。グランドデザインを具体的に示した物が学校計画書。取り組み目標、方法、成果目標、担当を一覧で示している。防災はＲ４・５と県の研究指定を受け、「特別支援学校による福祉避難所の運営」をテーマに研究を進めている。

質疑応答・感想等

Ａ委員　「助け合う」という言葉が入っていると良い。道徳として、人の気持ちに立って嫌なことはしないことは大切だと思う。

Ｂ委員　課題（目標）がたくさんあり大変だと思った。特別支援学校のセンター的機能は大切なこと。なかなか思うようにいかないこともあるかと思うが、この意識をもって行ってほしい。

Ｃ委員　教員のモチベーションが維持できるような働き方の上で、学校経営テーマを働いている人も感じられる学校ができると良い。

Ｄ委員　テーマの「誰もが幸せを感じられる学校」はっきり、もっと具体的にすると良い。

Ｅ委員　テーマの「誰もが幸せを感じられる学校」につきる。できる限り、ＰＴＡも協力しながら行っていきたいと思う。

Ｆ委員　「誰もが幸せを感じられる学校」はいい学校テーマだと思うが、具体的にどういうことかをみんなで探していくと良い。合言葉にしないで、具体的に探していく。共有していくことが大事。具体的に何をしていくか、教職員に提示するとよい。

令和５年度のグランドデザイン・学校計計画書について委員みなさまより承認をいただく。

９　閉会

岩見委員　学校運営協議会の内容について、教職員に伝え、職員はどのような感想を持ったのかを知らせてほしい。

10　コンプライアンス委員会

報告（教頭）

今年度 12 名の処分があった。本校はいなかったが、起こりうることとして研修してきた。12～１月にコンプライアンス強化期間として研修を行った。学年内で人権に関するグループワークを行い、話し合った内容を職員会議の時に全職員で共有した。自分事として、自分はどんな不祥事を起こしやすいかを考えたり同僚の話を聞いたりすることで自覚を持ち、職員間のコミュニケーションの大切さを確認できた。研修が負担とならないように工夫していく。交通事故については、10 月以降はなく無事故。３人組で無事故チャレンジを行ったり、県からの交通

安全動画を視聴したりしている。アルコールチェックを継続して行っている。Ｒ５は外部講師の研修や３年目の教員を対象に職員安全交通委員会設置を予定している。スクールバスについては、10 月に県よりスクールバスの立ち入り検査があった。スクールバス安全マニュアルを作成し、乗降時のチェック体制の見直しを行い、継続している。個人情報については、カメラの紛失がないよう管理の見直しや保管場所の徹底を行った。持ち出し簿を作成し継続している。

意見聴取

Ａ委員　県内ではいろいろ不祥事があるが、本校では何もなくてよかった。交通安全の研修は誰が来るのか。ドリームビレッジは保険会社と契約しているので、研修では保険会社が持っている事故のデータを提示したり生々しい映像を提供したりして実施している。是非、交通安全の研修に取り組んで欲しい。

Ｂ委員　社会福祉協議会では、送迎や狭い道路などから車の事故が多い。そのため自動車学校へ行き、自動車学校の車に乗って運転について確認した。運転のくせが分かり知ることができて良かった。

Ｃ委員　不祥事について、自分事として常に頭に入れることは大切。私もそうしていこうと思う。

Ｄ委員　カメラを校外に持ち出しているのか。

教頭　校外学習や職場実習などで持ち出している。持ち出し簿に記入し、データを消してから持ち出している。

Ｅ委員　紛失がなければ安心。

Ｆ委員　抜本的な解決策はあまりないと思う。定期的にこまめに研修することが有効。教員の仕事を見ていると、子どもへの指導、準備等たくさんの仕事がある中で、どれだけの精神力が必要かと思う。バランスをとって仕事をして欲しい。何か起きた時、隠すことはないと思っている。信頼している。いつもありがとうございます。

Ｃ委員　子どもの人権を考えた時、コンプライアンスは常にやらなければならない。以前、教育委員会にいたとき、子どもの人権は傷つけてはならないとしてきた。子どもの人権をどう考えるか、何回も何回も深めていかないとならない。不祥事の研修については、個人情報のこともあるがリアリティを持たせることが必要。現実味のある、実際に仲間が起こしたことを、自分たち、自分事として考えて欲しい。交通事故については、私が本校にいた時は年間２桁あった。10 月より０（ゼロ）は、とても努力していると思う。

11　閉会のあいさつ

校長　今回は、本校の１年間の取り組みについて説明を行った。エシカル甲子園の発表や富士特マルシェを参観していただき、紙面だけでなく実際の子どもの姿を見ていただいて良かった。子どもの人権はどうなっているか、また、子どもの成長にベースを置いていかないとと思った。令和５年度は子どもの人権や成長をどう考えて指導していくかを考えていきたい。１年間、ありがとうございました。